

## 排水処理方法について

## 1. 基本構想時の排水処理条件

排水の公害防止条件について、基本構想では以下のとおり設定している。

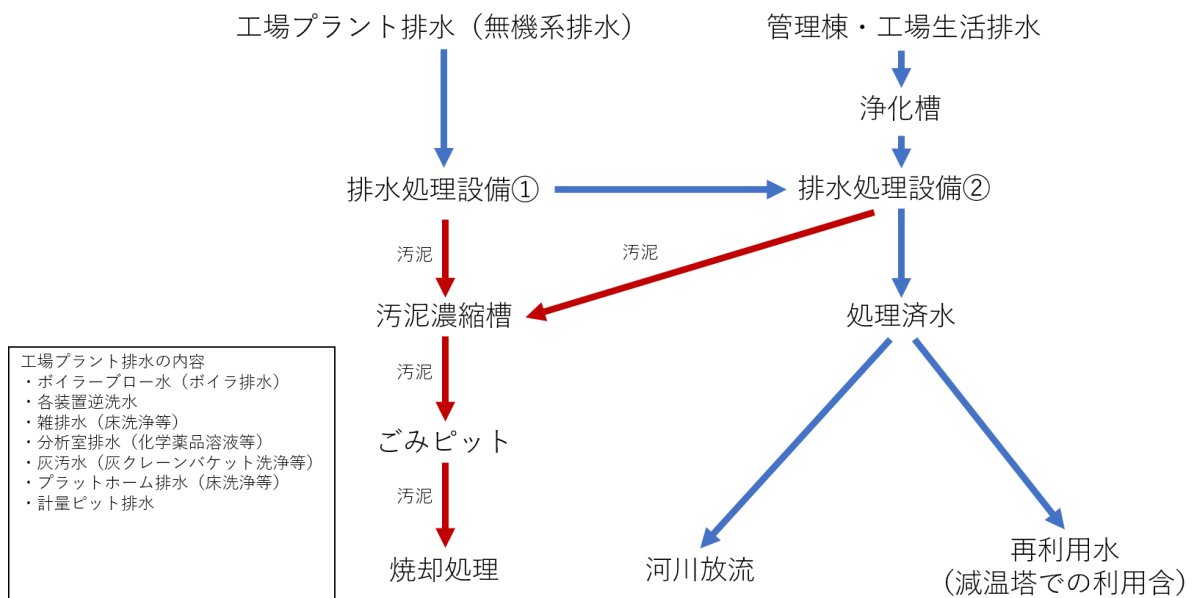
排水は、クローズドシステムの採用を前提とするが、オーバーフロー水（再利用しきれない水）の可能性を考慮して排水の自主基準値を設定する。

## 2. 既存施設の排水処理

あぶくまクリーンセンターの排水処理として、再利用しきれない余剰水について河川へ放流を行っている。排水フローは下記の通りである。

あぶくま焼却工場排水処理フロー

→ 排水の流れ



## 3. 新施設の排水処理

新施設の排水処理として、既存施設と同様に施設内で再利用しきれない余剰水を河川へ放流することとする。また、余剰水処理を目的としたクローズドシステムは採用しない。クローズドシステムを採用しないことのメリットとして下記の点が考えられる。

- （１）減温塔による余剰水の処理が必要なくなるため、余熱利用量が増加する。
- （２）減温塔等の設備設置費用が削減される。

なお、クローズドシステムを採用することによるメリットである環境負荷の低減は、河川への放流を行った場合においても、排水基準値を満たすことで、現状と同程度に抑えられる。